

こころゆた すぐ
子どもが心豊かにのびのびと健やかにそだつことができるように

日光市 子どもの権利に関する条例

まも まも
生きる権利
守り守られる権利

さんか
育つ権利
参加する権利

平成25年4月1日施行

こ けんり かん しょうれい 子どもの権利に関する条例

にっこうし 未来がかがやくまちをめぐり
日光市は、子どもたちの未来がかがやくまちをめぐり「日光市
子どもの権利に関する条例」をつくりました。

この条例は、「日本国憲法」や「子どもの権利条約」(正式名称は
「児童の権利に関する条約」)をもとに、子どもが、健やかに成長す
るためになくなくてはならない「基本的な権利」を保障するために定め
たものです。



もくじ 目次



はじめに	1 ページ
い けんり 生きる権利	2・3・4 ページ
まも まも けんり 守り守られる権利	5・6・7 ページ
そだ けんり 育つ権利	8・9・10 ページ
さんか けんり 参加する権利	11・12・13 ページ
けんり 権利のほかに大切なこと	14 ページ





第8条 こ子どもは、あんしん安心してい生きるために、つぎ次にかか掲げるけんり権利が保障されなければならない。

- (1) ああらゆるきけん危険からせいめい生命がまも守られ、へいわ平和とあんぜん安全のもとにく暮らすこと。
きけん危険のないところで、あんしん安心してせいかつ生活できるけんり権利です。
- (2) あいじょう愛情を持ってはぐく育まれること。
たくさんのあいじょう愛情をうけて、そだすこやかに育つけんり権利です。
- (3) かかけがえのないじぶん自分をたいせつ大切にすること。
ひとりひとりが、じぶん自分じしん自身をだいじ大事にできるけんり権利です。
- (4) あそ遊び、まな学び、お及きゆうそくび休息すること。
あそ遊ぶことで多くのけいけん経験をし、まな学ぶことで多くのちしき知識をえるけんり権利です。
きゆうそく休息は遊びと学びとのおとなバランスを大人といっしょ一緒にかんがしっかり考えて、たいせつとることが大切です。
- (5) けんこう健康的なせいかつ生活を送ること。
えいよう栄養とすいみん睡眠をきちんととって、けんこう健康に生活できるけんり権利です。

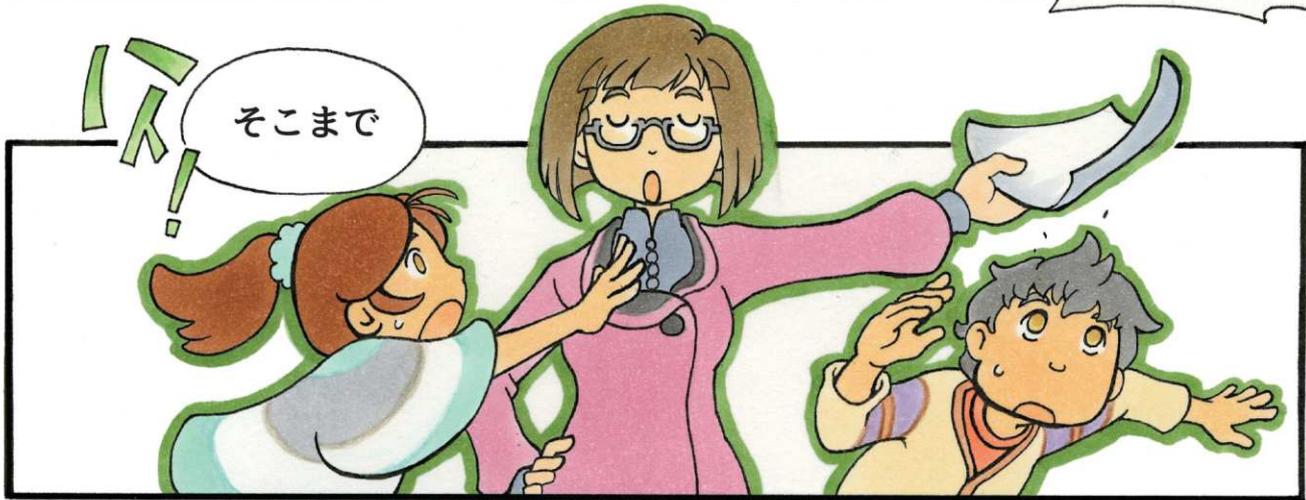


みんなには
「生きる権利」
があります！

世界でたったひとりの
自分です。たくさんの
愛情を受けて生きる
ことができます！

わたしの意見

Blank area with horizontal dashed lines for writing an opinion.

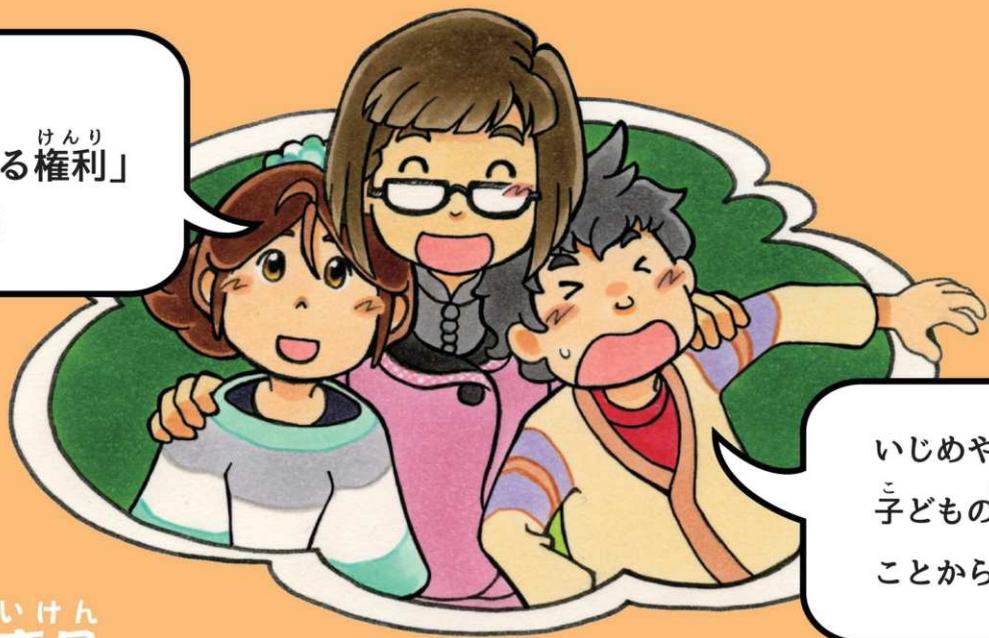




第9条 子どもは、自分を守り、又は自分が守られるために、次に掲げる権利が保障されなければならない。

- (1) 虐待、いじめ等から心身が守られること。
いじめなどから、自分の心やからだを守られる権利です。
- (2) 子ども又はその家族の性別、年齢、障がい、文化、国籍等による差別及び不当な不利益を受けないこと。
どのような理由によっても、自分が差別をされない権利です。
- (3) 自分を守るために必要な情報及び知識を得ること。
自分の心やからだを守るため、正しい情報を知ることができる権利です。
- (4) 気軽に相談し、適切な支援を受けること。
自分ひとりで苦しまずに、だれかに相談し、助けてもらえる権利です。
- (5) プライバシーが守られること。
自分の個人的な情報が、ほかのひとに知られないよう守られる権利です。

みんなには「守り守られる権利」があります！

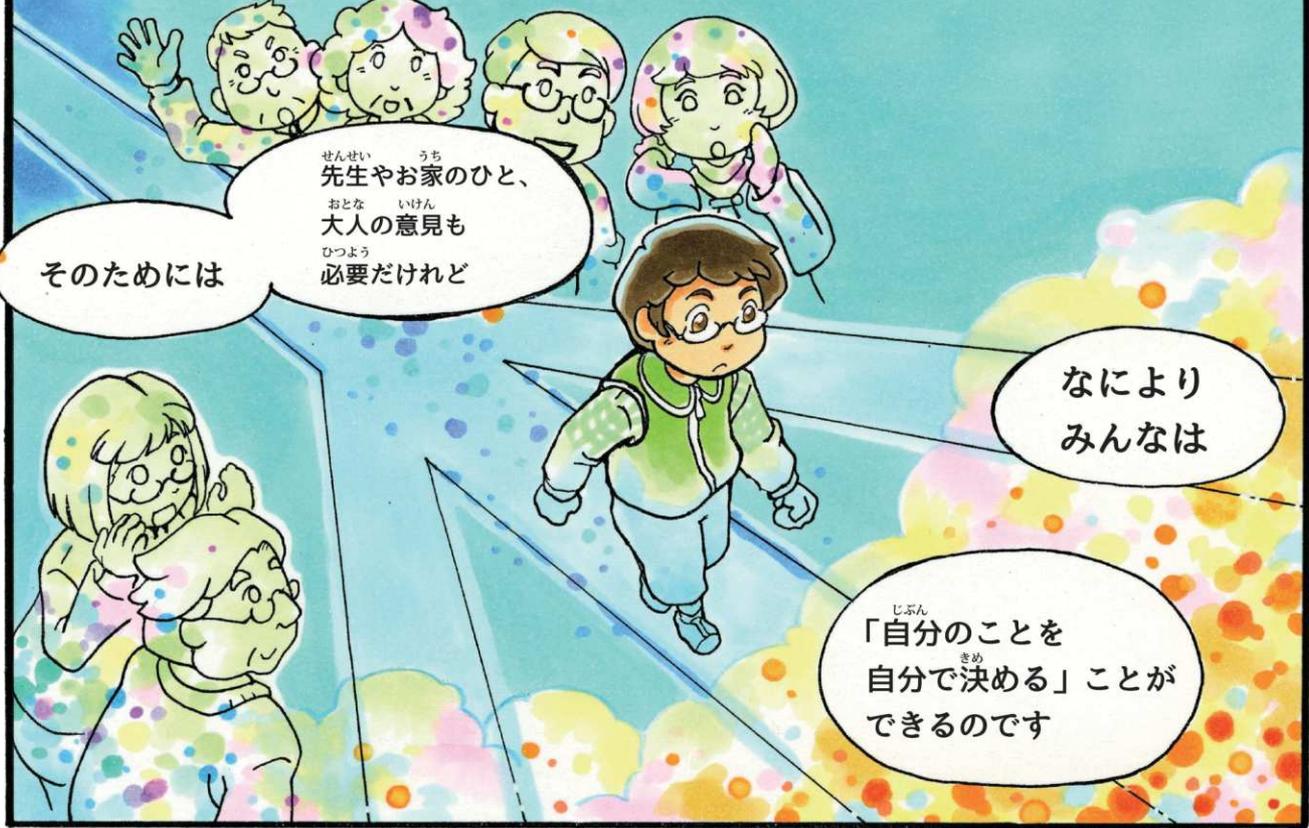


いじめや差別などで、子どもの幸せが奪われることから守られます！

わたしの意見

Blank area with horizontal dashed lines for writing an opinion.





そのためには

せんせい うち
先生やお家のひと、
おとな いけん
大人の意見も
ひつよう
必要だけれど

なにより
みんなは

じぶん
「自分のことを
自分で決める」ことが
できるのです



ちなみに
先生の夢は

うちゅうひこうし
宇宙飛行士
でした



かおるくんは
はなし
みんなの話をよく
き
聞いているよね

べんきょう おし
勉強を教えるのも
じょうずだよ!



たしかに!

なんか先生
みたいだよ



ほうかご
放課後



将来の夢
学校の先生

けんきょう 風がた

第10条 ^こ子どもは、^{さまざま}様々な^{けいけん}経験を通して^{とお}豊かに^{ゆた}成長するために、^{せいちょう}次に^{つぎ}掲げる^{かか}権利が^{けんり}保障^{ほしょう}されなければならない。

- (1) ^{こせいおよ}個性及び^{たにん}他人との^{ちが}違いを^{みと}認められ、^{ひとり}一人の^{にんげん}人間として^{そんちょう}尊重されること。
^{せいかく}性格や^{がいけん}外見が^{ちが}ちがっていても、^{ひとり}ひとりの^{にんげん}人間として^{だいじ}大事に^{けんり}される権利です。
- (2) ^{じぶん}自分の^{かんが}考えを持ち、^も自由に^{じゆう}表現^{ひょうげん}すること。
^{じぶん}自分が^{おも}思ったことや^{かん}感じたことを、^{じゆう}自由に^{ひょうげん}表現できる権利です。
- (3) ^{じぶん}自分に^{かんけい}関係することを、^{てきせつ}適切な^{しえん}支援^うを受けて^{じぶん}自分で^き決めること。
^{おとな}大人の^{じよげん}助言^うを受けながら、^{かんが}自分のことを^{自分で}自分で^{かんが}考え、^{はんだん}判断できる権利です。
- (4) ^{ゆめ}夢に向かつて^む挑戦^{ちようせん}すること。
^{しつぱい}失敗をおそれずに、^{ゆめ}自分の^{ちようせん}夢に^{けんり}挑戦できる権利です。
- (5) ^{げいじゆつ}芸術、^{ぶんか}文化及び^{ぶんか}スポーツに^ふ触れ^{した}親しむこと。
^{げいじゆつ}芸術や^{ぶんか}文化、^{ぶんか}スポーツに^ふふれることで、^{ゆた}豊かな^{こころ}心を^{そだ}育てる権利です。



みんなには
「育つ権利」
があります！

自分の思いを自由に
表現したり、自分で
決めることができます。

わたしの意見

Four horizontal dashed lines for writing an opinion.





第11条 ^こ子どもは、^{みずか}自ら^{しゃかい}社会に^{さんか}参加するために、^{つぎ}次に^{かか}掲げる権利が保障されなければならない。

- (1) ^{かてい}家庭、^{そだ}育ち^{まな}学ぶ^{しせつ}施設、^{ちいき}地域、^{ぎょうせいとう}行政等のあらゆる場で、^ぼ自分の^{いけん}意見を^{ひょうめい}表明すること。
どんな場所でも、自分の意見をいうことができる権利です。
- (2) ^{ひょうめい}表明した^{いけん}意見について、^{ねんれい}年齢又は^{せいちょう}成長に応じて^おふさわしい^{はいりよ}配慮がなされること。
自分の意見が受け入れられないときには、^{おとな}大人と^{はな}話し^あ合^{りゆう}って、理由を^{せつめい}説明してもらえる権利です。
- (3) ^{いけん}意見を^{ひょうめい}表明し、^{また}又は^{さんか}参加するための^{てきせつ}適切な^{じょうほう}情報の^{ていきょう}提供が^{おこな}行われること。
自分で^{かんが}考^{こうどう}えて^{ひつよう}行^{じょうほう}動する^{おし}ために、大人から必要な情報を^{おし}教えてもらえる権利です。
- (4) ^{なかま}仲間と^{つど}集い、^{とも}共に^{しゃかい}社会に^{さんか}参加し、^{しゃかい}社会の^{いちいん}一員として^{こうどう}行^{こうどう}動すること。
^{ちいき}スポーツや^{かつどう}地域の活動に参加して^{なかま}大人の仲間とも^{せいちょう}つきあ^{せいちょう}い、成長する権利です。



みんなには
「参加する権利」
があります！

自分の意見を自由に
表現したり、仲間と
集まって活動したり
できます。

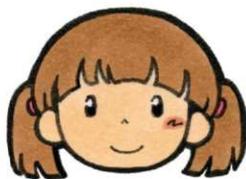
わたしの意見

Blank writing area with horizontal dashed lines for expressing one's opinion.

こ けんり そんちよう
子どもの権利を尊重するために、みんながそれぞれやらなければならないこと
とや、いっしょ ちから あ たいせつ
と一緒に力を合わせてやらなければならない大切なことがあります。

せきむ こ けんり
責務——子どもの権利を尊重するためにそれぞれがやらなければならないこと

こ
子どもの
責務



しゃかいのルールを守り、
自分もほかの人も大切
にして、いじめや差別
をしません。

ほごしゃ
保護者の
責務



子どもの気持ちを考え
て接し、健やかに育つ
よう、責任をもって見
守ります。

にっこうし
日光市の
責務



あんしん こそだ
安心して子育てができ
る環境をつくり、虐待
やいじめから守る取り
組みをします。

しみん
市民の
責務



子どもの成長の良いお
手本となり、市の取り
組みにも協力します。

ほしょう こ けんり まも いっしょ ちから あ
保障——子どもの権利を守るために一緒に力を合わせてやらなければならないこと

にっこうし
日光市



あんしん こそだ
安心して子育てができ
る街をつくり、虐待や
いじめから助ける体制
をつくります。

かてい
家庭



せいかつ きほん たいせつ
生活の基本となる大切
な場所として、権利を
守るためにできる限り
の努力をします。

がっこう
学校など



たの ます なかま
楽しく学び、仲間をつ
くる場所として、健や
かに成長できる環境を
をつくります。

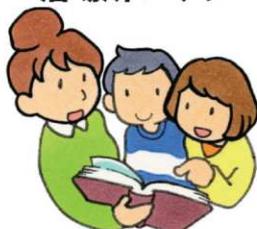
ちいき
地域



こども どうし や 大人との
交流の中で学び、遊び、
安心してすごせる地域
をつくります。

し こ けんり まも と く おこな
市は、子どもの権利を守るための取り組みを行います。また、そのような市民の活動を応援します。

いばしょ
居場所づくり



こころ やす
心とからだは休まり、
安心して居場所づ
くりをします。

ぎゃくたいぼうし
虐待防止



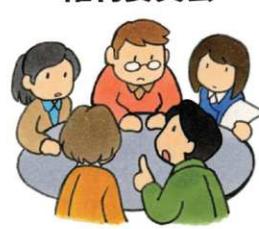
こ ぎゃくたい
子どもへの虐待やい
じめをさせないよう
にします。

そうだん
相談



なや くる
悩み苦しんでいるひ
とが、いつでも相談
できるようにします。

けんりいいんかい
権利委員会



けんり
権利についての取り
組みをより良くする
話し合いをします。

子どもの権利に関する条例

Q & A



Q.1 子どもの権利とは何でしょうか？

A.1 子どもの権利とは、子どもがいきいきと過ごし、自立した社会性のある大人に成長する権利です。

大人へ成長する過程にある子ども期の特殊性を踏まえ、豊かな子ども時代を過ごすことができるよう、地域社会全体で見守り育てていく必要があります。

Q.2 子どもの最善の利益とは、どのような考え方ですか？

A.2 子どもの思いや考えを受け止め、自立した社会性のある大人へと成長するために最も良いことは何かを考えることです。

子どもの意見を聞き、尊重することは大切なことですが、成長する過程にある子ども期にあつては、最善の利益を考えた場合、受け入れられない意見もあると考えられます。そのときは、子どもがわかるように理由を説明することが大切です。

Q.3 権利ばかりを教えると、子どもは、義務や責任を果たせないわがままな大人になるのではないですか？

A.3 権利や自由とは、自分の思うままに何でもできるということではありません。自分の決めたことや起こした行動には責任があります。

また、自分だけでなく相手にも同じように権利があり、それを尊重する必要があります。子どもの権利を正しく学び、権利を行使し、話し合う経験を繰り返すことで、子どもは、我がままになるのではなく、相手の気持ちを感じ取り、判断する力や他者を思いやる力になると考えています。

Q.4 条例には家庭や学校・施設の役割が定められていますが、家庭のしつけや学校の教育方針に不当に介入することにはならないですか？

A.4 新しい義務ではなく条約に基づき有している責務を改めて確認するものです。

保護者、学校・施設職員の方には、この趣旨をご理解のうえ、子どもの権利の保障について、より配慮した取り組みを行っていただきたいと考えています。

また、家庭での正しいしつけを受け、それを身につけることは、子どもにとって必要なことです。

子どもの権利としつけが相反するわけではなく、正しいしつけを受けることも大切な子どもの権利の一つであると考えられます。



子どもについての相談窓口 日光市家庭児童相談室 0288-30-7830
学校教育課教育指導係 0288-21-5181

日光市ホームページ <https://www.city.nikko.lg.jp/>
(各種相談窓口) <https://www.city.nikko.lg.jp/seikatsuanzen/guide/iza/soudan/>